

一方、八百津町の耐震化率は「住宅土地統計調査」の結果が公表されていないため、新耐震基準で建てられた住宅軒数を拾い出して計算しています。この結果、平成20年の八百津町の耐震化率は49%となっています。八百津町の耐震化率が低いのは、昭和56年以降の新耐震基準で建てられた住宅件数が少ないためだと考えられます。八百津町の耐震診断の実施状況は過去10年で木造住宅が80件です。耐震補強工事の実施状況は過去10年で10件となっています。耐震補強工事には最大で101万円の補助があります。それ以上に高額な工事費用が必要なことから、耐震補強工事が進んでいないのが実情です。毎年1000件程度の住宅を建設課職員が訪問し、耐震診断や耐震補強工事の必要性、補助金の説明などを行っています。しかし、耐震補強工事には大きな費用が掛かることから、特にお年寄りの年金生活の方にとっては、実施に踏み切れないところだと感じています。また、大きな地震に対して「自分とは関係ない」とか「自分だけは大丈夫だ」と言う現実逃避的に考える心理があるとも言われています。今後は、町広報への定期的な掲載、自治会回覧による周知、町のホームページへの継続的な掲載を行っていきたいと思います。また、職員による直接

訪問も増やし、耐震診断・耐震補強工事の普及促進に努めます。



長谷川泰幸 議員

Q1 (仮称)伊岐津志トンネルから入道の丘公園へのアクセス道路について

アクセス道路

問 (仮称)伊岐津志トンネルから入道の丘公園とのアクセス道路は、町民にも重要な路線になる。

これまでの説明では、野上交差点から国道418号経由がメイン道路との説明であったがこれでは、国道41号川辺方面への近道になるだけで、八百津中心部へのアクセスは大変悪くなってしまうため、逆巻地区からのアクセスとなるよう検討できないものか。町の意見を伺う。

答 (藤掛建設課長) (仮称)伊岐津志トンネルの開通は、八百津町から可児市や御嵩町への交通が格段に便利になり、住民生活の利便性が大

きく向上するものと期待しています。トンネルからの交通の流れを考えると、御嵩町方面からトンネルを通ってきた車両は、トンネルを出たところの交差点を右折し、多治見白川線を通り八百津橋を渡って八百津市街地へ入るルート、もう一つはトンネルから出たところの交差点を直進し町道伊岐津志・野上交線を通り稲葉橋を渡って、野上交差点から国道418号や県道野上・古井線へ接続するルートを想定しています。八百津町外から始めて入道の丘公園を訪れる方や、観光バスは稲葉橋を渡って、野上交差点を通行していただくのが、多少大回りになっていても、交通安全上の観点から見ても、最も良いルートだと考えています。

問 町は、今年度迄、教育関連予算を含む「杉原リスト」世界の記憶関連やソフト事業に對して計画的に予算措置してきた。一方、道路行政には、伊岐津志・和知・八百津など西部地区の道路はまだ遅れている感じは否めない。金子町長におかれては、来年度予算の指針や査定は、金子カラーの予算措置になるのではと思うが、道路行政について、町長の考え方や方向性などについて伺う。

答 (金子町長)

今後の道路整備予算は、道路施設の老朽化に伴う補修工事に重点を移していくべきだと考えています。当町においては橋梁、舗装、擁壁や土羽法面、道路照明器具や道路標識など道路施設の老朽化点検を実施しています。特に、橋梁や舗装については老朽化が進み、損傷の程度が著しい箇所が多く、補修工事を進めていかなければなりません。誰もが安全で安心して通行することができる道路を、次の世代へ引き継ぐことが努めだと考えています。道路交通網の整備は住民の通勤、通学などの日常生活や経済活動、広域的な交流を支えるもので、災害時の対応を含め、安全・安心な町づくりのための基盤となるものです。来年度予算編成におきましては、大変厳しい財政状況であることをご理解いただいたうえで、

Q2 道路行政の予算措置について

道路予算について

現在策定中の「第5次八百津町総合計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における重点方針を踏襲すべく、予算を編成していきたいと考えています。

Q1 農業の振興について

柘植清貴 議員

農業振興

問 総合計画のうち、農業振興の主要施策の「担い手の育成と確保」について、次のことを伺う。

①認定農業者の活用・農地の集積・農作業受委託の促進を通じて、担い手の確保・集落営農組織の育成・農業経営の法人化の促進に努めると計画されているがその施策の達成度と今後の方

